



1



4



3



2



6



5

①出前授業 ②熊本小川草心会メンバーの上田恭裕さん(48) ③同会の須々美秀幸さん(38) ④河江小に寄付されたイ草座布団 ⑤寄付されたイ草座布団はイ草の香りに癒やされ、座ると夏は涼しく、冬は暖かい ⑥品評会で九州農政局長賞を受賞した畑野さんの畳表

# イ草、畳の魅力を 次の世代の若者へ



左から 代表の光永千里さん(51)、和田正臣さん(43)、畑野泰人さん(53)、奥村秀信さん(50)、元嶋真実さん(52)

## 熊本小川草心会

kumamoto-ogawa-soshinkai

平成14年に、小川町のイ草農家で結成。現在メンバー7人。地元の小学校や保育園にイ草座布団などのイ草製品を寄付したり、出前授業で子どもたちにイ草の良さ、魅力を伝えている。

# 宇輝人

vol.78

を占める日本一の畳の産地。イ草で編んだ畳は、保温や断熱、香りによる鎮静効果(アロマセラピー)などの機能を持ち、生まれたばかりの子どもから高齢者まで幅広い年齢層で使用できる。熊本小川草心会はこの魅力をもっとの人に伝えるための取り組みも行っている。

### 地域貢献への思い

取り組みの一つが地元の小学校でのイ草の出前授業。16年前に先生に依頼されたことがきっかけだった。

同時に地元の保育園、小学校にイ草製品の寄付も始め、この出前授業と寄付は毎年の恒例行事に。河江小の廣瀬武史校長は「毎年、イ草座布団を寄贈いただき、教員や子どもたちが授業のときに実際に使用しています。小川町の特産であるイ草産業の伝統を感じることができ、素晴らしい活動に感謝しています。」と話す。

代表の光永さんは「座布団作りは専門ではなかったのですが、寄付の活動を始めて2、3年はそ

イ草特有の香りに包まれた倉庫に入ると、翌日の品評会のためにせつせと準備を行う数人の男たちの姿がある。作業しているのは「熊本小川草心会」。小川町のイ草農家で結成された団体だ。

小川町の上住吉、下住吉地区のイ草農家の技術向上を目的に結成。「イ草に心を込めて作る」という意味を込め、当時のメンバーで「草心会」と名付けた。

10月12日に行われた第48回熊本県農業大会。この日のために、イ草農家は仕事の合間を縫って、それぞれの自信作を作る。品評会は県内全てのイ草、イ草製品が出品され、その見た目、品質が評価される。今大会では、全240点の中から同会の畑野さんがイ草製品の部で銅賞の九州農政局長賞を受賞した。業者間ではメンバー全体の評価も高く、熊本小川草心会の名は全国に轟くほど。

### イ草の魅力

熊本県は、イ草の栽培面積や畳表の生産量が全国の99%以上

それぞれ個人のミッションを使って子ども用のイ草座布団を作っていました。当時は徹夜で作業を行い、とても苦労しましたね。寄付をして、子どもたちが卒業するまで大事に使ってくれているのを見ることにやりがいを感じています。」と話す。

活動は地元だけにとどまらず、東日本大震災や令和2年7月の熊本豪雨では、被害を受けた地域の仮設住宅にねごぎを寄付したこともあった。

「地元にも少しでも恩返しをしたいという思いがある。それと同時に、今の子どもたちはイ草や畳を実際に見たことがない、触れたことのない人が多い。そんな中で実際に見て、触れて、イ草の良さや魅力を知るきっかけになればと思います。」

イ草の良さ、魅力を次の世代の若者に残したい。そんなメンバーの熱い思いを原動力に熊本小川草心会の活動はこれから続く。

メンバーの活動はこちら

